

なりたい自分の姿を生徒がイメージして主体的に取り組む 特別活動の指導と評価の工夫

—— 中学校版「特活力テスト」の開発と活用を通して ——

長期研修員 高橋 隆二

《研究の概要》

本研究では、生徒がこうなりたいという自分の姿をイメージし、特別活動の様々な場面で主体的に取り組めるようにするため、中学校版「特活力テスト」の開発と活用を通して、特別活動の指導と評価の工夫を行った。中学校版「特活力テスト」は、意識を見取る設問と考え方や態度を見取る設問で構成し、特別活動で身に付けるべき力の定着状況を見取ることができるようにした。実践の結果、教師は、共通認識をもって指導することができ、評価の妥当性・信頼性を高めることができた。また、個人票の活用により、保護者の特別活動に対する関心が高まり、生徒の支援を促すことができた。これにより、生徒は、なりたい自分を意識しながら、特別活動に主体的に取り組めるようになった。

キーワード 【特別活動 中学校 特活力 目指すべき児童生徒の姿 特活力テスト】

群馬県総合教育センター

分類記号：G11-01 平成26年度 252集

I 主題設定の理由

学習指導要領「特別活動」の目標は、「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う」としている。また、学級活動、生徒会活動、学校行事にも目標が定められ活動を通して身に付けさせるべき力が一層明確に示された。さらに、「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（中学校 特別活動）」（国立教育政策研究所, 2011）では、各学校における指導と評価の工夫改善として、教師は指導と評価の一体化について意識し、学習評価の妥当性・信頼性を高めるとともに、組織的・計画的に実践をしていくことが重要としている。そして、「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校などにおける児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」（文部科学省, 2010）では、保護者や生徒への情報提供として、「学習評価に関する仕組み等について事前に説明したり、評価結果の説明を充実したりするなどして学習評価に関する情報を積極的に提供することも重要である」としている。

一方で、「平成25年度 学校教育の指針」（群馬県教育委員会, 2013）では、特別活動の指導の重点として、「『目指す児童生徒の姿』をもとに、身に付けさせたい態度や能力について段階的に評価し、児童生徒が主体となるよう各活動・学校行事を実施しましょう」としている。また、「平成26年度 学校教育の指針—解説編—」（群馬県教育委員会, 2014）のキャリア教育解説②では、「生徒の現在の様子（現状）と目指すべき児童生徒の姿（目標）を明確にしましょう。特に、目指すべき児童生徒の姿は、達成の検証が可能になるよう、行動レベルにまで具体化した姿で示しましょう」としており、どちらも「目指す児童生徒の姿」を明確にした指導を工夫していくことが重要であるとしている。

しかし、特別活動の指導においては、多くの中学校で、「十分にねらいの明確化が図られていない」ことや、「評価の観点及び趣旨について、教師の理解が希薄」などの課題が挙げられている。また、指導要録の特別活動の記録に、「各活動・学校行事ごとに各学校が自ら定めた特別活動全体に係る評価の観点に照らして十分満足できる状況と判断される場合に○印を記入する」ことについても、十分に周知されているとは言えない。学級活動や学校行事、生徒会活動の評価においては、生徒に各活動の前後や活動中に「学級活動カード」や「振り返りカード」などへ目標や反省、感想などを記載させ、評価が行われているものの、その評価内容は、担任が目を通して生徒に返却する程度で、指導要録や通知表の評価に十分反映されているとは言えない。また、各取組における担当教師の評価は行われているものの、担任に評価の情報が集約されていないことが多い。さらに、特別活動の評価は、通知表に記載する欄がなく、総合所見で担任が触れる程度となっているため、生徒や保護者に対して評価に関する情報を十分に提供できていない現状も見られる。

そこで、本研究では、生徒がなりたい自分の姿をイメージして主体的に特別活動に取り組めるようにするために、生徒が現在、身に付けている資質・能力や今後身に付けるべき資質・能力を明確にした指導と評価を工夫することで、生徒により良い人間関係を築く力、社会に参画する態度や自治的能力を身に付けさせたいと考えた。具体的には、特別活動で身に付けるべき資質・能力を「特活力」として標準化し、中学校版「特活力テスト」を開発する。さらにその活用を通して、指導と評価の工夫・改善を図る。これにより、「教師は、共通認識を持って評価に当たることができ、評価の妥当性・信頼性を高めることができる」「保護者は、生徒の現状を知ることができ、教師と同一歩調で生徒の支援ができるようになる」「生徒は、今の自分の姿を振り返り、なりたい自分の姿を具体的にイメージして学校生活により主体的に取り組めるようになる」などを実現していきたいと考え本主題を設定した。

II 研究のねらい

生徒がなりたい自分の姿をイメージして主体的に特別活動に取り組めるようにするために、評価の改善と指導の工夫を実現するための中学校版「特活力テスト」を開発する。

IV 研究内容

1 基本的な考え方

(1) 主体的に特別活動に取り組む生徒の育成を目指して

中学校学習指導要領解説特別活動編で重視されている「よりよい人間関係を築く力、社会に参画する態度や自治的能力」を育成するためには、生徒が学校生活の様々な活動を通して、自己の判断力や価値観を養い、主体的に物事を選択決定し、責任のある行動をすることができるよう、人間としての生き方についての自覚を深め、集団や社会の中で自己を生かす能力を養うことが必要である。そのためには、それぞれの生徒が現在身に付けている資質・能力と今後身に付けるべき資質・能力を自覚し、目標を持って特別活動に主体的に取り組むこと、保護者、教師が同じ思いを持って生徒を支援していくことが大切になる。

そこで、本研究では図1の通り、中学校版「特活力テスト」の開発と活用を通して、目標の実現を目指すこととした。具体的には、特活力を生徒がどれだけ身に付けているかを判定することのできる中学校版「特活力テスト」を開発し活用することで、生徒が自分のよさや苦手な部分に気づき、こうなりたいという具体的な姿のイメージを持ち、学校生活の様々な場面に、自信と意欲を持って主体的に取り組むことができるようになることを考えた。また、その実現に向けて、「教師が生徒を適切に見取り、指導と評価の一体化を図る」「保護者が子どもの成長や目指す姿を知った上で、見守り励ます」ことが重要であると考えた。



図1 研究構想図

図1の通り、中学校版「特活力テスト」の開発と活用を通して、目標の実現を目指すこととした。具体的には、特活力を生徒がどれだけ身に付けているかを判定することのできる中学校版「特活力テスト」を開発し活用することで、生徒が自分のよさや苦手な部分に気づき、こうなりたいという具体的な姿のイメージを持ち、学校生活の様々な場面に、自信と意欲を持って主体的に取り組むことができるようになることを考えた。また、その実現に向けて、「教師が生徒を適切に見取り、指導と評価の一体化を図る」「保護者が子どもの成長や目指す姿を知った上で、見守り励ます」ことが重要であると考えた。

(2) 特活力について

小学校学習指導要領解説特別活動編「第2章特別活動の目標 第2節4(4)」には、「特別活動は、望ましい勤労観、職業観を育成したり、児童が自ら現在及び将来の生き方を考えることができるようにするなど、キャリア教育としての役割を有している」と記されており、特別活動はキャリア教育と密接な関連があり、中核的な実践の場面として期待されていることが分かる。

また、中学校学習指導要領解説特別活動編では、特別活動で身に付けるべき能力や態度として「好ましい人間関係を形成するために必要な能力や態度」「所属する集団の充実・向上に努めようとする態度」「社会の一員としての自覚と責任ある態度」「人間として生き方を探求し自己を生かす能力や態度」の四つが挙げられている。この四つは「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育のあり方について(答申)」(中央教育審議会, 2011)で「確実に育成する」とされている「基礎的・汎用的能力」とほぼ内容が一致している。

そこで、この特別活動で身に付けるべき四つの能力や態度を考慮しながら、「基礎的・汎用的能力」を教師だけでなく、生徒や保護者にも分かりやすく伝えるために、特別活動で身に付けるべき能力を「特活力一覧」(表1)として3領域8項目に整理した。

特活力は、教師の指導、評価、共通認識の場面で活用するだけでなく、生徒と保護者に提示し、「なりたい自分の姿」をイメージするための指針としても活用する。

また、特活力8項目の習得状況をA～Dの4段階に整理したものを「特活力評価規準」(表2)とした。この「特活力評価規準」を中学校学習指導要領の内容に対応させながら、学校生活の様々な場面を想定した設問の解答により、生徒に特活力がどれだけ身に付いているかを判定する中学校版「特活力テスト」を作成していく。

表1 特活力一覧

領域	項目	内 容
自他の理解 を する力	① 自己理解	自分のよさや個性、性格等について理解したり、自分は将来に対しどのような夢や希望を持っているかなどについて理解する力。
	② 他者理解 (共感性)	他者の体験及び感情等について理解したり、自分の体験として同じように感じることができる力。
他者や集団に 適応する力	③ 協調性	相手との人間関係を円滑に進めようとする態度で、共通の目標に向けて行動することができる力。
	④ 適応力	集団の現状及び変化などに対して、自ら主体的、意識的に働きかけたり変化することにより、調和のとれた良好な人間関係や生活環境をつくり出すことができる力。
	⑤ 規範意識 (自律)	集団を尊重する態度、責任の自覚や権利と義務に関する正しい理解など、集団や社会の中のルール、約束を守ることができる力。
集団の中で自分を 発揮する力	⑥ 表現力	自分の気持ちや考えを他者に受け入れられる適切な手段や方法により表すことができる力。
	⑦ コミュニケーション能力	他者の気持ちや考えをきちんと受け止め、理解しながら、自分の気持ちや考えを相手に伝え、よい関係を築くことのできる力。
	⑧ 問題解決能力	身の回りに起こる問題や課題に対して、解決のために考えたり行動したりすることができる力。

表2 特活力評価規準

		A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 最低限身に付けるべき力	D 必要な力が身に ついていない
自他の理解 を する力	自己理解	自分のよさや個性、性格、行動様式、価値観、置かれている環境などについて、理解し、生活や将来に生かそうとしている。	自分のよさや個性、性格、行動様式、価値観、置かれている環境などについて、理解している。	自分のよさや個性、性格、行動様式、価値観、置かれている環境などについて、興味を持っている。	自分のよさや個性、性格、行動様式、価値観、置かれている環境などについて、興味を持っていない。
	他者理解 (共感性)	他者のよさや個性、性格、行動様式、価値観、置かれている環境などについて、受け入れ、生活に生かそうとしている。また、他者のよさを認め励ます方法や大切さについて理解し、実践している。 他者の心情を自分のものとして受け止め、相手の心情やものの考え方について、共感している。	他者のよさや個性、性格、行動様式、価値観、置かれている環境などについて、受け入れている。また、他者のよさを認め励ます方法や大切さについて理解している。	他者のよさや個性、性格、行動様式、価値観、置かれている環境などについて、興味を持っている。	他者のよさや個性、性格、行動様式、価値観、置かれている環境などについて、興味を持っていない。
他者や集団に 適応する力	協調性	他者の価値観を尊重し、認め、行動できる。 集団のルールや友人の意見に従って活動することの大切さについて理解し、実践している。 気の合わない友人であっても、相手の気持ちを考え、ともに活動することの大切さについて理解し、実践している。	他者の価値観を尊重し、認めている。また、集団のルールや友人の意見に従って活動することの大切さについて理解している。	他者の価値観に関心を持っている。	他者の価値観を尊重し、認めることができない。
	適応力	友人同士の活動や新しい集団に自ら働きかけたり、自らが変化しながら、調和のとれた良好な人間関係や生活環境を考え、判断し、実践している。	友人同士の活動や新しい集団に自ら入っていき、調和のとれた良好な人間関係や生活環境を考え、判断し、実践している。	友人同士の活動や新しい集団に入り、集団に合わせて活動している。	友人同士の活動や新しい集団に入り、集団に合わせて活動していない。
	規範意識 (自律)	自分の属する集団の秩序を尊重し、集団のルール、約束事を守ることについて考え、判断し、実践している。	自分の属する集団の秩序を尊重し、集団のルール、約束事を守ることができる。	自分自身の行動選択や善悪の判断ができる。	自分自身の行動選択や善悪の判断ができない。
集団の中で 自分を 発揮する力	表現力	他者の意見に対して自分の気持ちや考えを分かりやすく自分の言葉や態度で伝える方法について考え、判断し、実践している。またTPOに応じて適切に表現する方法を考え、判断し、実践している。	他者の意見に対して自分の気持ちや考えを分かりやすく自分の言葉や態度で伝える方法について考え、判断し、実践している。	自分の気持ちや考えを言葉や態度で表している。	自分の気持ちや考えを言葉や態度で表していない。
	コミュニケーション 能力	相手の立場や意見を尊重しながら、自分の考えも分かりやすく、協力的・建設的に伝える方法について理解し、実践している。	相手の立場や意見を尊重しながら、自分の考えも相手に伝える方法について理解し、実践している。	相手の立場や意見を尊重しながら、相手と交流している。	相手の立場や意見を尊重しながら、相手と交流していない。
	問題解決 能力	問題や課題が生じた際、自分の力または他者と協力しながら、主体的な態度で解決する方法について考え、判断し、実践している。	問題や課題が生じた際、自分の力又は他者と協力して解決する方法について考え、実践している。	問題や課題が生じた際、解決する方法について考え、実践している。	問題や課題が生じた際、解決する方法について考え、実践していない。

2 先行研究とのつながり

「よりよい人間関係を築くための自主的・実践的な態度を身に付けさせる学級活動の指導と評価の工夫」（東京都教育委員会, 2012）は、指導の工夫として「ジグソー法」を用い、評価の工夫として「生徒による自己評価や相互評価の場面を設定」、「生徒及び教師による評価の活用」、「教師評価の累積化」などを行った。これらのことを意図的に実施・活用することで、生徒は、集団の一員としての自分に自信を持ち、自主的・実践的な態度でより良い人間関係を築こうとする態度が養われる。教師は年度末の評価を短時間に適切に評価することができるというものである。

実践後の教師の評価に関するアンケートでは、実際に評価をする教師によって、評価の状況に大きな差があることが分かった。この要因として、「目指す生徒の姿」への意識が薄かったり、共通認識が持たれていなかったり、適切な評価の蓄積がされていなかったりすることが考えられるとしている。

3 教材の概要

(1) 中学校版「特活カテスト」の内容

中学校版「特活カテスト」とは、生徒が特活カをどれだけ身に付けているか判定するテストである。生徒たちの意識の中では「テスト＝試験」となりがちだが、本テストは、「テスト＝検査」という観点から開発した。これは、教師の説明や問題文に記載してある。

生徒は実際の場面を想定した問題に対して、「自分だったら」（今の自分）と「本当はこうした方がよい」（理想の自分）の両面から解答をするため、今の自分と理想の自分を比較、分析し、なりたい自分の姿をイメージすることができる。また、分析した結果をもとに教師と面談をしたり、保護者からアドバイスをもらうなどしながら、なりたい自分の姿を修正し、より具体的に生徒がなりたい自分の姿をイメージすることができる。表3に中学校版「特活カテスト」の設問一覧を示す。

表3 中学校版「特活カテスト」設問一覧

学級活動	特活カ(領域)	特活カ項目	問題No.	学習指導要領の内容		評価項目
				学級活動	生徒会活動	
(1) 学級や学校の生活づくり (2) 適応と成長及び健康安全 (3) 学業と進路	自他を 理解する力	自己理解	①	◎(2)ア,イ (3)ウ		学級活動
			①-I	◎(1)ア (2)イ (3)ウ,エ		
			①-II	◎(1)ア (2)イ,イ (3)ウ		
		他者理解	②-I	◎(1)ア (2)イ,エ (3)ウ		生徒会活動
			②-II	◎(1)ア (2)イ,イ,エ (3)ウ		
			③	◎(2)ア,イ,エ		
			③-I	◎(1)ア (2)イ,イ,エ,エ ◎(3),(4) ◎(3)		
			③-II	◎(1)ア (2)イ,エ ◎(3) ◎(3)		
			④-I	◎(1)ア (2)イ,エ ◎(1),(4)		
	他者や集団に 適応する力	協調性	④-II	◎(1)ア (2)イ,エ ◎(1),(4)		学校行事
			⑤-I	◎(1)ア (2)イ,エ ◎(4) ◎(3)		
			⑤-II	◎(1)ア (2)イ,エ ◎(4) ◎(3)		
		適応力	⑥-I	◎(1)イ (2)エ,エ,エ ◎(1),(5) ◎(5)	生徒会活動	
			⑥-II	◎(1)イ (2)エ,エ,エ ◎(3),(5) ◎(5)		
			⑦	◎(1)イ,ウ (2)エ,エ (3)エ		学級活動
			⑦-I	◎(1)ア (2)イ,エ		
			⑦-II	◎(1)ア (2)イ,エ		
			規範意識	⑧-I		◎(1)ウ (2)ウ ◎(1),(2),(3),(4)
⑧-II	◎(1)ウ (2)ウ ◎(1),(2),(5) ◎(2)					
⑨	◎(1)イ,ウ (2)ウ,エ (3)エ	学校行事				
⑨-I	◎(1)ウ (2)ウ ◎(4) ◎(4)					
⑨-II	◎(1)ウ (2)ウ ◎(4)					
生徒会活動 学校行事	表現力	⑩-I		◎(1)ウ (2)ウ ◎(1),(2),(3),(4)	学校行事	
		⑩-II	◎(1)ア (2)ア ◎(2)			
		⑪-I	◎(1)ウ (2)イ (3)ア,イ,エ ◎(5)	学級活動		
		⑪-II	◎(1)ウ (3)イ ◎(2),(5)			
		コミュニケーション能力	⑫	◎(1)ア,イ,ウ (2)ウ ◎(2),(3),(4)		学校行事
	⑬-I		◎(1)イ (2)エ,エ ◎(4)			
	⑬-II		◎(1)イ (2)ウ,エ ◎(4)			
	⑭-I		◎(1)ア (2)ア,エ	生徒会活動		
	⑭-II		◎(1)ア (2)ア,エ			
	問題解決能力	⑮	◎(1)ア (2)ア (3)ア ◎(1),(2),(3),(4),(5)	学級活動		
		⑯-I	◎(1)ウ (2)ウ (3)ア,イ			
		⑯-II	◎(1)ウ (2)ウ ◎(2)			
		⑰-I	◎(1)イ (2)ウ ◎(4)		学校行事	
		⑰-II	◎(1)イ (2)ウ ◎(4)			

(学習指導要領の内容の表記 ◎:学級活動 ◎:生徒会活動 ◎:学校行事)

① 中学校版「特活力テスト」問題について

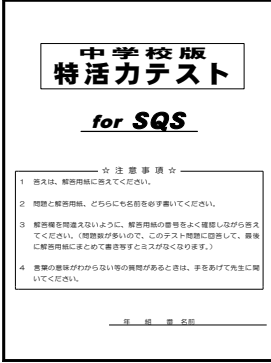
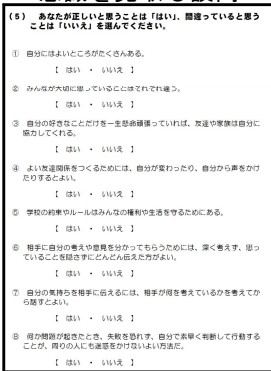
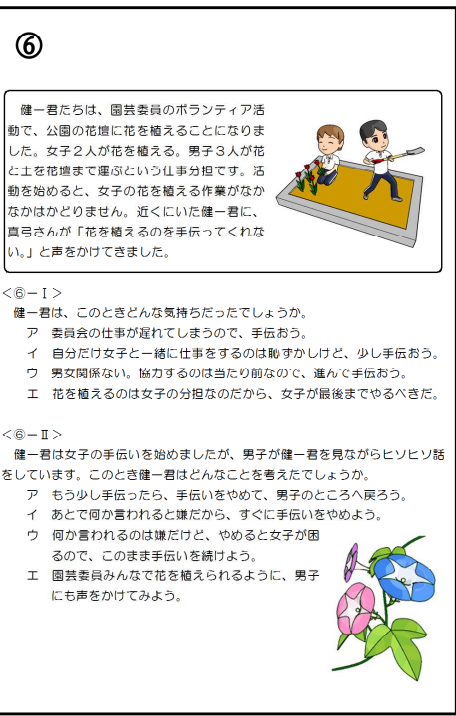
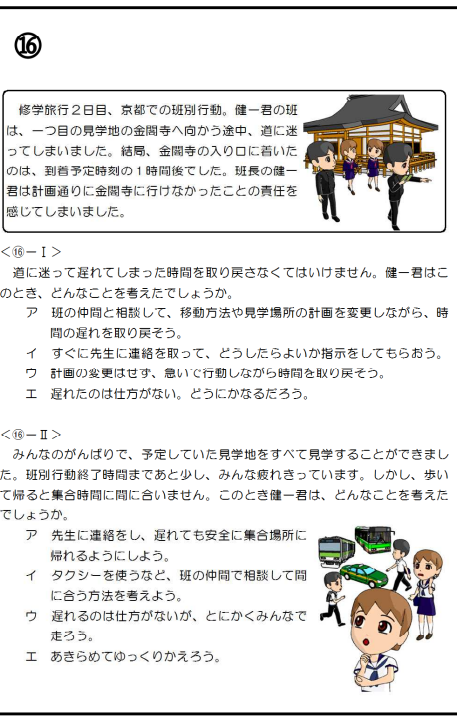
<p>表紙</p>  <p>意識を見取る設問</p> 	<p>考え方や態度を見取る設問</p> <p>⑥</p> 	<p>⑬</p> 
--	--	---

図2 中学校版「特活力テスト」問題（抜粋）

中学校版「特活力テスト」は8項目それぞれに対して、意識を見取る設問を各1問（図3）と考え方や態度を見取る設問を各2問（図4）の合計3問で特活力を見取る。

意識を見取る設問は、特活力に対して、正しい意識を持っているか調査する問題で、「はい」「いいえ」から自分の考えを選ぶ問題である。

考え方や態度を見取る設問は、学校生活の具体的な場面で生徒がどのように判断、行動しているか「今の自分の考えや行動」と「理想とする考えや行動」の二つの視点から、それぞれの問題に解答する。

解答した結果は、「特活力テスト個人票」（図5）として、生徒に返却し、振り返りを行うことができるようにした。また、各クラスの結果は「特活力テスト学級結果一覧」（図9・図10）として、担任が、学級指導に活用することができるようにした。

(5) あなたが正しいと思うことは「はい」、間違っていると思うことは「いいえ」を選んでください。

① 自分にはよいところがたくさんある。
【 はい ・ いいえ 】

② みんなが大切に思っていることはそれぞれ違う。
【 はい ・ いいえ 】

③ 自分の好きなことだけを一生懸命頑張っていれば、友達や家族は自分に協力してくれる。

図3 意識を見取る設問（抜粋）

健一君のクラスでは、修学旅行の班別自由行動のコース決めをしています。健一君の班は、班長の昌弘君が仲間の意見を聞かず、自分勝手にコースづくりを進めてしまい、班の仲間の不満がたまっています。



<⑬-I>
このとき健一君は、どんな気持ちだったでしょう。
ア 自分も行きたいところがあるのに、言い出せない。どうしよう。
イ 昌弘君がリーダーとして張り切っているのはわかるけど、みんなの意見も聞いてほしいな。
ウ 班のみんなも昌弘君も嫌な思いをせずにコースをつくるにはどうしたらよいだろう。
エ 昌弘君はリーダーシップがあってすごいな。これは班長に任せよう。



図4 学校生活の具体的な場面でどのように感じ、いかに対処するかを問う問題（抜粋）

② 中学校版「特活力テスト」個人票について

特活力テスト 個人票

学年 1 年 組 1 番 名前 234

テスト結果

①自己理解
②他者理解
③協調性
④適応力
⑤規範意識
⑥表現力
⑦問題解決

■あなたの考え・行動 ■あなたの理想

①自己理解
②他者理解
③協調性
④適応力
⑤規範意識
⑥表現力
⑦問題解決

3つの力

自己の理解をする力	★ ★ ★
他者や集団に導く力	★ ★ ★
集団の中で自分を発揮する力	★ ★ ★

3つの活動

学 校 活 動	★ ★ ★
生 活 活 動	★ ★ ★
学 校 行 事	★ ★ ★

振り返り 1

特活力とは、あなたがこれから生きていく上でとても大切な力です。自分や周囲の人のことをよく知っていたり、約束が守られたり、仲間と協力したり…という8つの力を身に付けることで、より豊かな生活を送ることができます。特活力テストの結果や普段の自分を振り返り、なりたい自分の姿をイメージして、よりよい自分づくりをしていきましょう。

今の自分の姿

私のよいところ・得意なことは

私の変えたいところ・苦手なことは

なりたい自分の姿

よりよく頑張りたい姿とよりよい自分の姿

そのために取り組むことは

先生から

保護者から

振り返り 2

図5 中学校版「特活力テスト」個人票

テスト結果

①自己理解
②他者理解
③協調性
④適応力
⑤規範意識
⑥表現力
⑦問題解決

■あなたの考え・行動 ■あなたの理想

①自己理解
②他者理解
③協調性
④適応力
⑤規範意識
⑥表現力
⑦問題解決

3つの力

自己の理解をする力	★ ★ ★
他者や集団に導く力	★ ★ ★
集団の中で自分を発揮する力	★ ★ ★

3つの活動

学 校 活 動	★ ★ ★
生 活 活 動	★ ★ ★
学 校 行 事	★ ★ ★

図6 中学校版「特活力テスト」結果⑦

振り返り 1

特活力とは、あなたがこれから生きていく上でとても大切な力です。自分や周囲の人のことをよく知っていたり、約束が守られたり、仲間と協力したり…という8つの力を身に付けることで、より豊かな生活を送ることができます。特活力テストの結果や普段の自分を振り返り、なりたい自分の姿をイメージして、よりよい自分づくりをしていきましょう。

今の自分の姿

私のよいところ・得意なことは

私の変えたいところ・苦手なことは

なりたい自分の姿

よりよく頑張りたい姿とよりよい自分の姿

そのために取り組むことは

図7 振り返り1⑧

個人票(図5)⑦「テスト結果」に、中学校版「特活力テスト」の結果をグラフ化したものを表示できるようにした(図6)。横棒グラフは、自分が特活力をどれだけ身に付けているのかを知ることができる。レーダーチャートは、中の色が塗られている線が今の生徒の姿、点線が生徒の理想とする姿を表している。二つのグラフを比較させることで、生徒に「理想とする姿にどれだけ近づいているのか」「理想とする姿の方向性が間違っていないか」などを考えさせることができる。「3つの力」と「3つの活動」は、星の数★1～★5で特活力3領域と指導要録の特別活動評価項目の視点から自己分析をできるようにした。

個人票(図5)⑧「振り返り1」は、生徒がテスト結果を分析し、「なりたい自分の姿」をイメージできるようにした(図7)。生徒は、結果を元に自分の「よいところ」と「変えたいところ」などを「特活力評価の観点」④を参考にしながら振り返ることができる。この振り返りを元に「なりたい自分の姿」と「そのために取り組むこと」を具体的に考えられるようにした。

個人票(図5)⑨は、生徒の「振り返り1」をもとに、「先生から」を担当が記入し、保護者に「保

図8 通信欄と振り返り2㊦

「保護者から」の記入を依頼する。身近な大人がアドバイスをすることで、生徒はより考えを深め、「振り返り1」の修正と「まとめ」の記入をすることができる。また、個人票を生徒・保護者・教師の間を行き来させることで、生徒の成長の様子と「なりたい自分の姿」を共通理解することができ、学校と家庭で同一歩調の支援ができるようになる。

また、特活力の説明を個人票に記載してあるため、目標や身に付く力など特別活動に対する保護者の意識も高めることができる。

③ 学級結果一覧 (図9・図10・図11) について

図9 学級結果一覧「自分の考え・行動」シート

図10 学級結果一覧「理想の考え・行動」シート

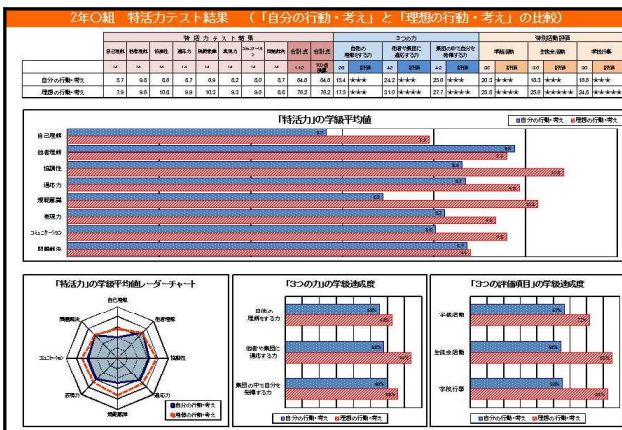


図11 学級結果一覧「比較」シート

中学校版「特活カテスト」の学級全員分の結果を「自分の考え・行動」シート(図9)と「理想の考え・行動」シート(図10)の一覧表にまとめ、教師が生徒一人一人の判定結果を容易に見取れるようにした。

また、この結果を「比較」シート(図11)にグラフやレーダーチャートで表示することで、学級や学年の特活力の習得状況や考え方や行動の傾向を教師が客観的に把握し、分析できるようにした。この分析した結果をもとに、個人だけでなく学級に対しても効果的な支援が計画的に行うことができる。

(2) 事前実態調査結果について

① 中学校教師に対する実態調査結果(7月)

学習指導要領「特別活動」の改訂に伴い、特別活動の評価は以下の三つの内容が改訂された。

<ポイント㉗>

評価の観点を学習指導要領の目標及び特別活動の特質に沿って、各学校で定めることとなった。

<ポイント㉘>

評価の観点が「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」の4観点から、「関心・意欲・態度」「思考・判断・実践」「知識・理解」の3観点になった。

<ポイント㉙>

生徒や保護者に対して、学習評価の方法や結果の説明をするなどして、評価に関する情報を積極的に提示することとなった。

この三つの内容などの理解について、協力校地区の中学校教師 119名を対象に実態調査アンケート（図12）を行った。ポイント⑦「自校の定めた評価の観点により評価する」について「知っている」と答えた教師は65%。ポイント⑧「評価の観点の3観点に整理された」について「知っている」と答えた教師は50%。ポイント⑨「特別活動の評価規準を生徒・保護者に提示している」について「知っている」と答えた教師は40%という結果となった。

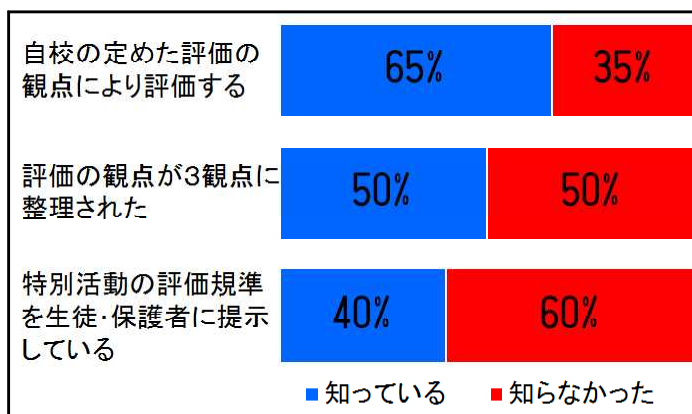


図12 学習指導要領改訂3つのポイントについて

この他にも、「自校で定めた評価の観点を生徒指導要録に記載する。」に対して「知っている」と答えた教師は57%。「特別活動の評価規準を職員で共通理解している」に対して「している」46%だった。これらの結果から、中学校では、特別活動の評価についての教師の認識がやや不十分である可能性があるという結果となった。

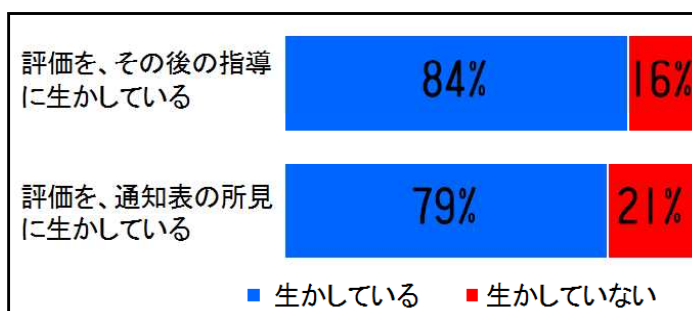


図13 特別活動の評価の還元について

しかし、「特別活動の評価を、学級・学年経営やその後の特別活動の指導に生かしている」「特別活動の評価を、通知表の所見に生かしている」という質問（図13）に対して、ほとんどの教師が「生かしている」と答えており、教師は特別活動の評価結果を生徒や保護者に伝える努力をしているということが分かった。

調査結果をまとめると、教師は特別活動の評価に対して、意欲的ではあるものの評価に対する認識と評価規準の共通理解が不十分な状態で評価を行っている可能性があるため、担任の主観による評価となっていたり、学年、学級によって評価規準が統一されていない可能性があることが分かった。

② 実践協力校全校生徒の事前実態調査結果（5月）

実践協力校全校生徒 369名を対象に特別活動に関する実態調査を行った（図14）。「特別活動に自分なりの目標を持って取り組んでいるか」という質問に対して「思う・やや思う」と答えた生徒は79%。「学級のみんなの役に立ちたいと思うか」という質問に対して「思う・やや思う」と答えた生徒は79%と特別活動に高い意欲を持っていることが分かった。しかし、「学級のみんなの前で意見を発表したり、みんなのために行動しているか」という質問に対しては「思う・やや思う」と答えた生徒が28%と低い結果となった。これらの結果から、「生徒は高い意欲を持っているが、その意欲をどう発揮すべきか分からない」「自分の行動に自身が持てないため、積極的に行動することができない」の

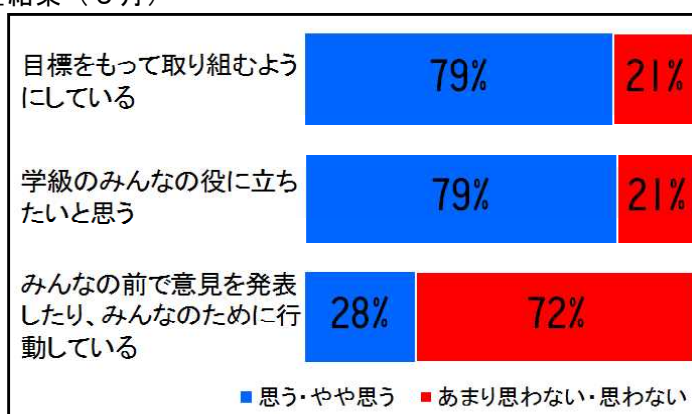


図14 特別活動の取組について

「自分の行動に自身が持てないため、積極的に行動することができない」の

ではないかと考えられる。

また、「特別活動の取組について、先生・友達・家族からほめられたことがあるか」という質問（図15）に対して、「先生からほめられたことがある」「友達からほめられたことがある」と答えた生徒が、どちらも75%以上であるのに対して、「家族からほめられたことがある」と答えた生徒が66%と低い結果になった。特に実践を行った2年生では、「家族からほめられたことがある」と答えた生徒が54%と約半数が特別活動について、家族からほめられたことがないと答えている。また、「通知表の所見を日頃の行動に生かしているか」という質問（図16）に対しても「生かしている」と答えた生徒は44%と、非常に低い数値となった。

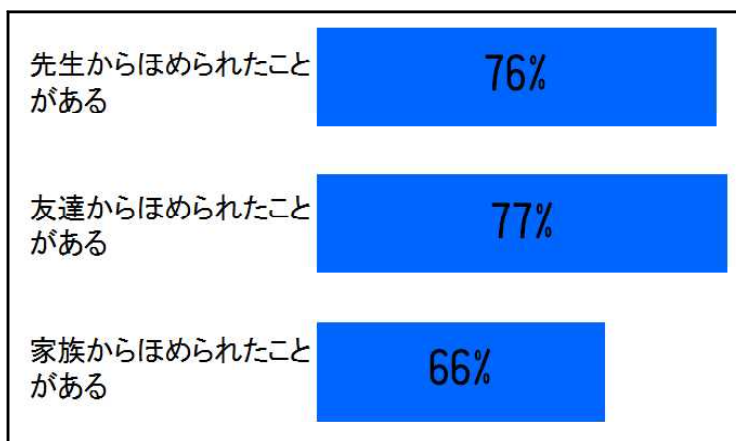


図15 特別活動の取組について

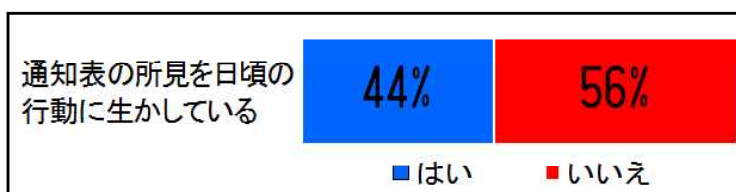


図16 特別活動の評価への生徒の意識

家庭で学校生活についてほめられることが少ないことや通知表の所見を日頃の行動に生かしている生徒が少ないという結果から、特別活動の評価に対して、保護者と生徒の意識が低いと考えられる。

③ 実態調査結果から

生徒の実態調査結果を見ると、学校生活に対して意欲はあるが具体的に行動できていない生徒が多いことが分かった。これは、学校が特別活動の評価規準や評価方法を家庭に対して、十分提示できていないことが原因の一つであると考えられる。また、提示するための評価規準や評価方法の校内での整備も不十分であるため、教師が保護者と生徒に対して働きかけができていないのではないかと考えられる。

そこで、中学校版「特活力テスト」を活用し、特活力を教師が共通理解した上で評価を行い、家庭にその評価方法や評価結果を提示することで、生徒・保護者の特別活動への意識を向上させ、教師・保護者が同歩調で生徒を支援できるようにすることと、生徒が具体的な行動イメージを持って主体的に活動に取り組めるようにすることが必要であると考えられる。

IV 研究の計画と方法

1 中学校版「特活力テスト」の開発と活用の経緯

対象	藤岡市立西中学校 中学校第2学年 4学級 (120名)		
実践期間	平成26年10月16日～平成26年12月2日		
月日	活動内容	対象(時間)	ねらい他
9月下旬	特活力テスト試作版の実施 (「今の自分」で解答)	長期研修員とその家族	特活力テスト試作版の解答方法などの確認。 特活力テスト試作版の妥当性・信頼性を調査する
10月上旬	特活力テスト試作版の集計、問題の修正、個人票の集計方法などの検討		集計結果、聞き取り調査などから問題の妥当性、信頼性を検討、修正 集計方法の検討、確認 個人票の検討、修正

月 日	活動内容	対象(時間)	ねらい他
10月16日(学活)	プレ特活カテストの実施 (「今の自分」で解答)	2年4組 (50分)	プレ特活カテストを実践し、特活力に対する意識の向上を図る テストに対する担任や生徒の様子を確認する
10月16日 ～11月5日	結果の集計 問題の修正		集計結果、生徒の様子から問題の妥当性、信頼性を検討、修正
11月6日(学活)	特活カテストの実施 (「今の自分」と「理想の自分」で解答)	2年1組 2年2組 (50分)	特活カテストを実践し、特活力に対する意識の向上を図る テストに対する担任や生徒の様子を確認する
11月14日(学活)	特活カテストの実施 (「今の自分」と「理想の自分」で解答)	2年3組 (50分)	特活カテストを実践し、特活力に対する意識の向上を図る テストに対する担任や生徒の様子を確認する
11月14日 ～11月20日	結果の集計、分析 所見欄の記入		個人票の結果分析と所見の記入をする 学級結果一覧の分析
11月18日 (学年会議)	学級結果一覧の返却	2学年 職員	学級の傾向と指導が必要な生徒などの分析結果を担任に伝え、個人票返却の方法と今後の学級・個別指導について検討する
11月21日(学活)	特活カテスト個人票の返却 個人面談	2年全組 (100分)	担任により、行事や学級の活動を振り返りながら、特活力について指導する 生徒が個人票の分析と「振り返り」欄を記入などを行うことで、なりたい自分の姿をイメージする 「結果」と「振り返り」欄などをもとに個人面談を行い、担任からアドバイスをする
11月21日 ～11月30日	保護者欄記入期間	2年全組 (各家庭)	生徒に特活カテスト個人票を持ち帰らせ、保護者欄の記入を依頼する
11月31日(学活)	特活カテストまとめ	2年全組 (30分)	保護者欄の保護者アドバイスと個人面談の担任アドバイスを受けて、振り返り欄の修正のまとめの記入を行い、なりたい自分になるための意欲を高める

注：太枠は授業実践

2 検証計画


検証の視点	方法
特別活動の評価において、中学校版「特活カテスト」の活用を通して指導と評価の工夫を行うことで、教師は共通認識を持って評価に当たることができ、評価の妥当性・信頼性を高めることができたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・教師へのアンケート分析 ・教師への聞き取り調査
中学校版「特活カテスト」やその結果を家庭へ還元することで、生徒が現在身に付けている資質・能力や今後身に付けるべき資質・能力について、学校と家庭とで共通理解することができたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・個人票「保護者」「まとめ」欄の分析 ・教師への聞き取り調査
中学校版「特活カテスト」の振り返りにおいて、生徒が自分の中学校版「特活カテスト」の結果を特活力を意識して、分析することによって、自分のよい点や進歩の状況などを理解し、なりたい自分の姿をイメージして特別活動に主体的に取り組む意欲を高めることができたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒へのアンケート分析 ・個人票「振り返り」「まとめ」欄の分析 ・教師への聞き取り調査

3 実践の様子

(1) 中学校版「特活力テスト」の実践

11月14日（金）第5校時（50分） 学活 2年3組 30名

ねらい：中学校版「特活力テスト」を実践し、特活力に対する意識の向上を図り、今の自分の姿を客観的にとらえる。

主な活動（時間）	生徒の姿他
<p>○中学校版「特活力テスト」について説明を聞く（5分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特活力とは何か。行事や普段の生活を例に挙げて説明する。 ・成績に直結するテストではないということを確認し、正直に解答するように伝える。 ・解答方法を確認する。 	<p><教師の説明を聞く></p> <ul style="list-style-type: none"> ・特活力とは何か理解することができた。 <p><中学校版「特活力テスト」に解答する></p> <ul style="list-style-type: none"> ・特活力を意識して、各問題に取り組むことができた。 ・読むことが苦手な生徒も、教師に続けて解答することで、遅れずに解答できた。
<p>○ 中学校版「特活力テスト」に答える（30分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テストは「自分の考え・行動」と「理想の考え・行動」の2つの視点で解答させる。 ・転記ミスを防ぐため、問題用紙に直接回答させ、終了後に解答用紙に転記させる。 ・読むことが苦手な生徒のために、教師は音読と説明をしながら解答させる。 ・読むことが得意な生徒は、どんどん自分のペースで解答させ、全問解答できた生徒から、「自由記述欄」を記入させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校版「特活力テスト」に解答することで、普段の自分の行動について、振り返ることができた。 
<p>○ 中学校版「特活力テスト」回収（10分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題用紙に解答したものをマークシートに転記する。 ・問題回収。 	<p><全問解答済生徒は自由記述欄へ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活の具体的な場面での「自分の行動」と「理想の行動」を中学校版「特活力テスト」に解答した後に考えたことで、特活力を意識し、自分を客観的に振り返ることができた。

<生徒の自由記述例>

①よいところや得意なところ

- ・男女関係なく誰とも話すことができる。
- ・ピアノが得意で、人の気持ちを考えることができる。
- ・困っている友達の話聞いてあげる。

②変えたいところや苦手なところ


- ・初めて会った人に自分から積極的に話しかけることができない。
- ・大変なことがあるとすぐに諦めてしまう。
- ・自分の考えを自信を持って言えない。

③これから頑張りたいこと

- ・悪口などない、みんな仲がいいクラスをつくれるようにみんなに声をかけていきたい。
- ・みんなが盛り上がっているときに、みんなと一緒に盛り上がるようにする。
- ・次のことを考えて、言われる前に行動するようにしたい。
- ・誰とも仲良くできるように、相手の気持ちを考えて行動していきたい。

(2) 中学校版「特活力テスト」個人票返却・個人面談の実践

11月21日（金）第5・6校時（100分） 学活 2年（各クラス） 120名
 ねらい：生徒が個人票の分析と「振り返り」欄を記入などを行うことで、なりたい自分の姿をイメージする。

主な活動（時間）	生徒の姿他
<p>○中学校版「特活力テスト」個人票返却（10分） ○中学校版「特活力テスト」分析法の説明を聞く（15分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「特活力 評価の観点」と問題文をよく読んで、学校生活の具体的な場面での行動について考えさせる。 ・グラフの見方など、振り返りの方法をプリントなどを使って説明する。 <p>○振り返り・個人面談をする（70分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・結果をもとに「今の自分の姿」を振り返らせ、「なりたい自分の姿」を具体的にイメージさせる。 ・個別に面談を行い、担任からアドバイスや分析の支援をする。よいところに着目して、生徒に自信を持たせる。 <p>○「保護者から」欄の記入依頼（授業後）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者に対して、「中学校版『特活力テスト』の説明」「授業の流れやねらい」を記載したプリントを配付し、協力を依頼する。 	<p><中学校版「特活力テスト」分析法の説明></p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題文にある学校生活の具体的な場面から、どのような行動や考え方を理想とすればよいのか。真剣に考えている生徒が多くいた。 ・プリント「振り返りのポイント」を配付することで、生徒は特活力を意識しながら振り返ることができた。  <p><振り返り></p> <ul style="list-style-type: none"> ・結果グラフや担任の説明を聞いて、特活力を意識しながら、振り返りをし、「なりたい自分の姿」をイメージできた生徒が多くいた。 ・普段の生活の様子と中学校版「特活力テスト」の結果をもとに、担任が個別にアドバイスすることで、生徒が自分の「よいところ」「得意なこと」をより多く発見することができた。 ・振り返りと個別のアドバイスを同時進行で、じっくりと時間をかけて指導することができた（70分間）。なかなか振り返りが書けない生徒もいたが、担任から直接アドバイスを受けたり、「教師から」欄のコメントを読むなどして、「なりたい自分の姿」をイメージすることができた。
<p><生徒の振り返り例></p> <p><よいところ、得意なこと></p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の立場になって考えられる。 ・問題や課題に対して、考えて行動できる。 <p><変えたいところ、苦手なこと></p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に人と関わることが苦手。 ・問題が起きたときに、解決策をよく考えて行動できない。 <p><なりたい自分の姿></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをしっかりと持ち、自分を表現できる人になる。 ・周囲に流されず、自信を持って行動できるようになる。 ・誰とでも仲良く、責任感の強い人になる。 	<p><保護者への反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明プリントを配付することで、保護者の視点から結果分析をし、アドバイスを記入したり、「こうなって欲しい。」という願いを記入していた。保護者の特別活動に対する意識を高めることができた。
<p><保護者記入例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達のことを一番に考えられる優しい気持ちはずっと持ち続けて欲しいと思います。欲を言えば、もう少し積極的に人前に出られるといいと思います。少しずつでも恥ずかしがらずに一步踏み出せたらいいなと思います。Fight! ・人を変えるのは人だと思っています。周囲の人を明るくしてくれる〇〇ちゃんのよいところを生かして、たくさんの人と積極的に関わって、人間力を高めて欲しいです。 	
<p><生徒のまとめ例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・特活力を高められるように、学校生活に目標を持って、一日一日を大切に過ごしていきたいです。 ・自分の気持ちを周りの人に伝えられるようになりたいです。そして、よいところを伸ばしていきたいです。これからは少しでも自分に素直になれるといいと思います。 ・周囲に気を配るという面ではこれからも続けていき、自分の意志をしっかりとって、何事にも最後まで諦めず取り組んでいきたいです。 	

V 研究の結果と考察

実践を行った2学年生徒120名を対象に「特別活動に関するアンケート」を中学校版「特活力テスト」の事前（6月）、事後（12月）に実施した。また、協力校地区の中学校教師119名を対象に「特別活動の評価に関する調査」（5月）、実践を行った2学年職員を対象に聞き取り調査（12月）を実施した。その解答結果の比較と中学校版「特活力テスト」個人票の記述内容から分析を行った。

1 教師による共通認識を持った指導と評価の実現

中学校版「特活力テスト」を実施した学級の担任に対して、聞き取り調査を行ったところ、「特活力テストの『理想の考え・行動』から知識・理解の観点を見取ることができたので、特別活動で身に付けるべき力を身に付けているが、表現することが苦手な目立たない生徒も評価することができた」「評価規準が明確になったので、自信を持って評価できた」「評価規準をもとに、生活の中で生徒を見る観点がはっきりとした」「特活力テストの結果を通知表や指導要録の所見に参考にすることができる」などの意見を聞くことができた。

5月に行った教師に対する「特別活動に関するアンケート」では、「特別活動の評価についての認識と評価規準の共通理解が不十分な状態で教師が評価を行っている可能性がある」という結果だったが、中学校版「特活力テスト」と特活力評価規準を使って授業を行うことで、校内研修などの共通認識の場を設定しなくても、評価についての認識と評価規準の共通理解ができるようになったと考えられる。これらのことから、中学校版「特活力テスト」を活用して評価の工夫を行うことは、教師が共通認識を持って評価し、その妥当性・信頼性を高めるために有効であったと考えられる。

しかし、「特別活動の評価の観点を学習指導要領の目標及び特別活動の特質に沿って、各学校で定め評価する」ことについては、中学校版「特活力テスト」の活用だけでは不十分である。そこで、中学校版「特活力テスト」の配点や特活力一覧、特活力評価規準を各校の重点にあわせて修正するなど、活用の工夫が必要である。

2 評価の還元による保護者への働きかけ

事前アンケート（5月）の「特別活動の取組について、先生・友達・家族からほめられたことがあるか」という質問から、生徒が家族からほめられる経験が少ないことが分かった（図15）。そこで、中学校版「特活力テスト」の結果や特別活動の評価の観点などを家庭へ還元し、家庭による支援を促した。その結果、「家族からほめられたことがある」と答えた生徒が、54%から70%と大幅に増加した（図19）。これは、保護者が、子どもの特別活動を通して成長した姿や伸ばしたい力を把握し、具体的な視点を持って子どもを支援することができるようになったからだと考える。

中学校版「特活力テスト」のまとめ学習では、「振り返り1」で、なかなか「なりたい自分の姿」をイメージできなかった生徒が、担任と保護者からのアドバイスを受け、「なりたい自分の姿」を具体的にイメージできるようになり、「振り返り1」を修正したり、今後身に付けたい力や頑張りたいことなどを自信を持って、記入できるようになった。

これらのことから、特別活動の評価の家庭への還元は、保護者が生徒の現状を知り、教師と同一歩調で支援ができるようになり、生徒がより主体的に特別活動に取り組めるようになるために有効であったと考える。

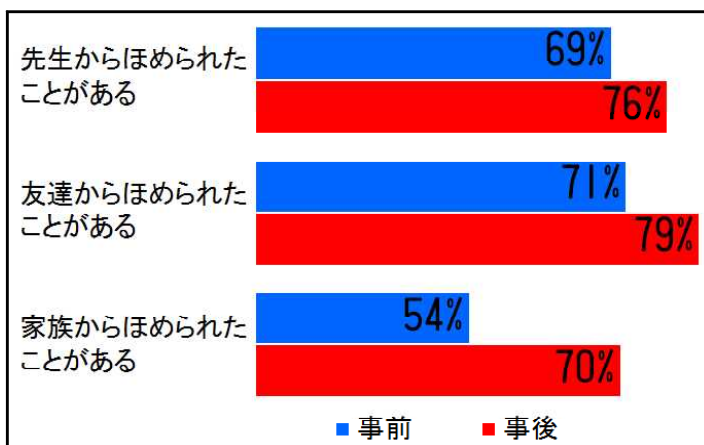


図19 特別活動の取組について（2年生）

3 特活力の客観的な把握

11月に行った実践協力校2学年生徒全員に対する事後アンケートの結果、中学校版「特活力テスト」の実施と振り返りによって、生徒は少しずつ自分なりの目標を持って、特別活動に意欲的に取り組めるようになってきたことが分かる(図17)。

これは、振り返りの活動の中で、特活力を意識しながら、自分の特活力について考え、担任や保護者などの身近な大人からアドバイスをもらうことで、生徒が自分自身の特活力を客観的に把握し、なりたい自分の姿を明確にすることができたからだと考えられる。

さらに、事後アンケート(図18)では、中学校版「特活力テスト」を使って学習することで、「自分について知ることができた」「なりたい自分の姿をイメージし、目標を持つことができた」と、ほとんどの生徒が答えている。これらのことから、中学校版「特活力テスト」を使って、特活力の習得状況を客観的に把握することは、生徒が学校生活に主体的に取り組めるようになるために有効であったと考えられる。

ただ、「自分の苦手なことに気付くことができた」という質問に対して、「できた・ややできた」と答えた生徒が最も多く、振り返りのコメントでも、「苦手な面を改善したい」と書いた生徒が多かった。今後、生徒が自分自身のよいところに目を向け、特別活動により主体的に取り組むことができるようにするため、ワークシートの修正や指導プログラムの改善などが必要である。

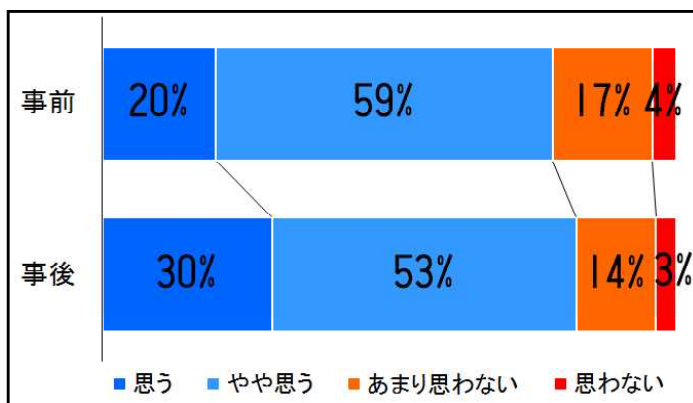


図17 目標を持って特別活動に取り組んでいる

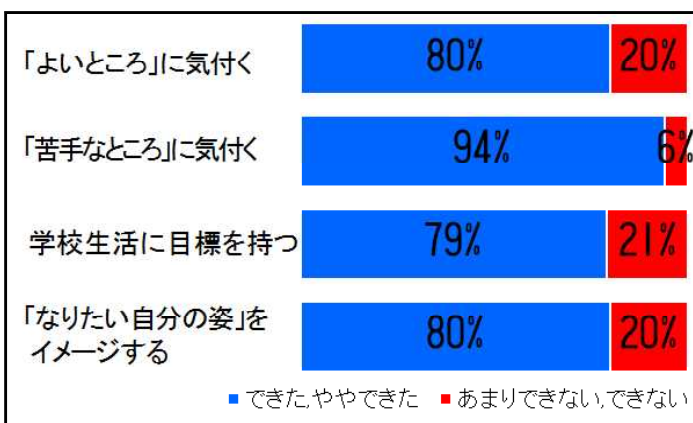


図18 中学校版「特活力テスト」を使った授業を受けて

VI 研究のまとめ

1 成果

(1) 教師による共通認識を持った指導と評価の実現

教師が特別活動の評価をする場面では、教師が中学校版「特活力テスト」を活用したり、「特活力評価規準」をもとに生徒を見取ることを通して、教師は共通認識を持って、指導に当たることができ、評価の妥当性・信頼性を高めることができた。

(2) 評価の還元による保護者への働きかけ

保護者に対して家庭による支援を促す場面では、「特活力テスト 個人票」の返却と「保護者から」欄の記入を保護者に依頼することを通して、保護者が生徒の現在身に付けている特活力と今後身に付けるべき特活力について理解できるようにすることで、特活力の視点から生徒を認め、励ませるようになった。また、「特活力 評価の観点」を保護者に配付することを通して、保護者の特活力に対する関心を高め、学校と保護者が共通認識のもと、生徒を支援することができるようになった。

(3) 特活力の客観的な把握

特活力の習得状況を客観的に把握する活動では、中学校版「特活力テスト」の結果を「特活力」を意識しながら自己分析させることを通して、生徒に自分の特活力について客観的に把握させ、「なりたい自分の姿」をイメージして、学校生活により主体的に取り組ませることができた。

2 課題

(1) 中学校版「特活力テスト」の問題文と実施時間について

中学校版「特活力テスト」はSQSシステムにより作成しているため、教師は簡単に短時間で集計することができる。その反面、問題文と選択肢がやや長い文章となっているため、実施に時間がかかる。特に読むことが苦手な生徒は、教師の支援が必要となる。そこで、文章を簡潔に分かりやすい表現にしたり、問題構成を見直すなどして、効率的な実施方法を検討していく必要がある。

(2) 保護者への協力依頼について

「保護者より」欄の記入の依頼は、「特活力テストの説明」「授業の流れやねらい」などを記載したプリントで行った。ほとんどの保護者は中学校版「特活力テスト」を使った指導内容や活動のねらいを理解し、特活力に関する励ましやアドバイス、「こんな力を身に付けて欲しい」などの願いや思いを記入し、それを讀んだ生徒が意欲を高めることができた。しかし、中には中学校版「特活力テスト」の指導内容や活動のねらいを理解しないまま、テスト結果に批判的な意見を記入したり、生徒の悪い面を指摘する意見を記入した保護者が数名いた。そこで、プリントのみでの保護者への働きかけだけでなく、懇談会や三者面談で保護者に直接協力を依頼するなど、すべての保護者に指導内容や活動のねらいが伝わる方法や時期を工夫していく必要がある。

(3) 意欲を持続させる継続的な指導について

特活力は、3年間の指導により、計画的に高めていく必要のある資質・能力である。しかし、中学校版「特活力テスト」は、一年間のうちに何度も実施できる資料ではない。そのため、実施直後の生徒は、「なりたい自分の姿」を意識しながら主体的に取り組めるようになるが、その意欲を持続させ、更に高めていくための計画的な指導が必要である。そこで、中学校版「特活力テスト」を核とした特活力の指導プログラムを開発し、計画的に指導を進められるような活用方法を検討していくことが必要となる。具体的には、意識を見取る設問のみを定期的実施し、生徒の意識を持続させたり、考え方や態度を見取る設問の1場面を学級活動で取り上げ、スキルトレーニングを行うなど、様々な活用方法が考えられる。

Ⅶ 提言

- 1 生徒を主体とした特別活動の充実を図るためには、生徒の特活力を客観的に把握し、目指す姿を教師と生徒が共有することが重要である。
- 2 生徒の意欲を高め、家庭による支援を促すためには、特別活動を通して成長した姿や伸ばしたい力を明確にして、家庭に還元することが重要である。

<参考文献>

- ・『中学校学習指導要領解説特別活動編』 文部科学省(2008)
- ・『小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について(通知)』 文部科学省(2010)
- ・『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料(中学校 特別活動)』 国立教育政策研究所(2011)
- ・『平成25年度学校教育の指針(解説編)』 群馬県教育委員会(2013)
- ・文部科学省 『中学校キャリア教育の手引き』 教育出版発行(2011)

<研究協力校>

藤岡市立西中学校

<研究協力者>

寺山 敦雄 蜂須 雄太 谷岡 志乃 荻野 昌和 中嶋 雄大

<担当指導主事>

平形 隆正 瀧川 豊宏

特活力 一覧

領域	項目	内容
自他の理解をする力	自己理解	自分のよさや個性、性格等について理解したり、自分は将来に対しどのような夢や希望を持っているかなどについて理解する力。
	他者理解 (共感性)	他者の体験及び感情等について理解したり、自分の体験として同じように感じる事ができる力。
他者や集団に適応する力	協調性	相手との人間関係を円滑に進めようとする態度で、共通の目標に向けて行動することができる力。
	適応力	集団の現状及び変化などに対して、自ら主体的、意識的に働きかけたり変化することにより、調和のとれた良好な人間関係や生活環境をつくり出すことができる力。
	規範意識 (自律)	集団を尊重する態度、責任の自覚や権利と義務に関する正しい理解など、集団や社会の中のルール、約束を守ることができる力。
集団の中で自分を発揮する力	表現力	自分の気持ちや考えを他者に受け入れられる適切な手段や方法により表すことができる力。
	コミュニケーション能力	他者の気持ちや考えをきちんと受け止め、理解しながら、自分の気持ちや考えを相手に伝え、よい関係を築くことのできる力。
	問題解決能力	身の回りに起こる問題や課題に対して、解決のために考えたり行動したりすることができる力。

特活力 評価規準

		A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 最低限身に付けるべき力	D 必要な力がに付いていない
自他の理解を 解する力	自己理解	自分のよさや個性、性格、行動様式、価値観、置かれている環境などについて、理解し、生活や将来に生かそうとしている。	自分のよさや個性、性格、行動様式、価値観、置かれている環境などについて、理解している。	自分のよさや個性、性格、行動様式、価値観、置かれている環境などについて、興味を持っている。	自分のよさや個性、性格、行動様式、価値観、置かれている環境などについて、興味を持っていない。
	他者理解(共感性)	他者のよさや個性、性格、行動様式、価値観、置かれている環境などについて、受け入れ、生活に生かそうとしている。また、他者のよさを認め励ます方法や大切さについて理解し、実践している。他者の心情を自分のものとして受け止め、相手の心情やものの考え方について、共感している。	他者のよさや個性、性格、行動様式、価値観、置かれている環境などについて、受け入れている。また、他者のよさを認め励ます方法や大切さについて理解している。	他者のよさや個性、性格、行動様式、価値観、置かれている環境などについて、興味を持っている。	他者のよさや個性、性格、行動様式、価値観、置かれている環境などについて、興味を持っていない。
他者や集団に適応する力	協調性	他者の価値観を尊重し、認め、行動できる。集団のルールや友人の意見に従って活動することの大切さについて理解し、実践している。気の合わない友人であっても、相手の気持ちを考え、ともに活動することの大切さについて理解し、実践している。	他者の価値観を尊重し、認めている。また、集団のルールや友人の意見に従って活動することの大切さについて理解している。	他者の価値観に関心を持っている。	他者の価値観を尊重し、認めることができない。
	適応力	友人同士の活動や新しい集団に自ら働きかけたり、自らが変化しながら、調和のとれた良好な人間関係や生活環境を考え、判断し、実践している。	友人同士の活動や新しい集団に自ら入っていき、調和のとれた良好な人間関係や生活環境を考え、判断し、実践している。	友人同士の活動や新しい集団に入り、集団に合わせて活動している。	友人同士の活動や新しい集団に入り、集団に合わせて活動していない。
	規範意識(自律)	自分の属する集団の秩序を尊重し、集団のルール、約束事を守ることに考え、判断し、実践している。	自分の属する集団の秩序を尊重し、集団のルール、約束事を守ることができる。	自分自身の行動選択や善悪の判断ができる。	自分自身の行動選択や善悪の判断ができない。
集団の中で自分を発揮する力	表現力	他者の意見に対して自分の気持ちや考えをわかりやすく自分の言葉や態度で伝える方法について考え、判断し、実践している。またTPOに応じて適切に表現する方法を考え、判断し、実践している。	他者の意見に対して自分の気持ちや考えをわかりやすく自分の言葉や態度で伝える方法について考え、判断し、実践している。	自分の気持ちや考えを言葉や態度で表している。	自分の気持ちや考えを言葉や態度で表していない。
	コミュニケーション能力	相手の立場や意見を尊重しながら、自分の考えもわかりやすく、協動的・建設的に伝える方法について理解し、実践している。	相手の立場や意見を尊重しながら、自分の考えも相手に伝える方法について理解し、実践している。	相手の立場や意見を尊重しながら、相手と交流している。	相手の立場や意見を尊重しながら、相手と交流していない。
	問題解決能力	問題や課題が生じた際、自分の力または他者と協力しながら、主体的な態度で解決する方法について考え、判断し、実践している。	問題や課題が生じた際、自分の力または他者と協力して解決する方法について考え、実践している。	問題や課題が生じた際、解決する方法について考え、実践している。	問題や課題が生じた際、解決する方法について考え、実践していない。

中学校版「特活力テスト」指導要領対応表

中学校学習指導要領 特別活動の内容		対応する問題	
学 級 活 動	(1) 学級や学校の生活づくり	ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決	① I II、② I II、⑦ I II、③ I II ⑤ I II、④ I II ⑪ I II、⑭ I II
		イ 学級内の組織づくりや仕事の分担処理	⑥ I II、⑬ I II、⑯ I II
		ウ 学校における多様な集団の生活の向上	⑧ I II、⑨ I II、⑩ I II、⑫ I II ⑮ I II
	(2) 適応と成長及び健康安全	ア 思春期の不安や悩みとその解決	① II、② II
		イ 自己及び他者の個性の理解と尊重	① I II、② I II、③ I II ④ I II ⑦ I II、⑫ I
		ウ 社会の一員としての自覚と責任	③ I、⑤ I II、⑧ I、⑨ I II、⑩ I II ⑬ II、⑭ I、⑮ II、⑯ I II
		エ 男女相互の理解と協力	⑥ I II、⑬ I II、⑯ I II
		オ 望ましい人間関係の確立	② I II、③ I II、④ I II、⑤ I II ⑥ I II、⑦ I II、⑬ I II、⑭ I II
		カ ボランティア活動の意義の理解と参加	⑥ I II、⑧ II、⑪ II
		キ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成	③ I II、④ II、⑬ I、⑭ I II
		ク 性的な発達への適応	⑥ I II
		ケ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成	⑧ II、⑮ I II
	(3) 学業と進路	ア 学ぶことと働くことの意義の理解	⑫ I、⑮ I
		イ 自主的な学習態度の形成と学校図書館の利用	② II、⑩ II、⑫ II、⑮ I
		ウ 進路適性の吟味と進路情報の活用	① I II、② I II、⑫ I
		エ 望ましい勤労観・職業観の形成	⑫ I
		オ 主体的な進路の選択と将来設計	① I、⑫ I
	生 徒 会 活 動	(1) 生徒会の計画や運営	④ I II、⑥ I、⑧ I II
		(2) 異年齢集団による交流	⑧ I II、⑩ II
		(3) 生徒の諸活動についての連絡調整	③ I II、⑥ II、⑧ I
(4) 学校行事への協力		.	
(5) ボランティア活動などの社会参加		⑥ I II、⑧ II	
学 校 行 事	(1) 儀式的行事	⑩ I II	
	(2) 文化的行事	⑪ I II、⑧ II、⑫ II、⑮ II	
	(3) 健康安全・体育的行事	③ I II、⑤ I II、	
	(4) 旅行・集団宿泊的行事	⑨ I II、⑬ I II、⑯ I II	
	(5) 勤労生産・奉仕的行事	⑥ I II、⑫ I II	

保護者 様

特活力テスト 保護者欄 記入のお願い

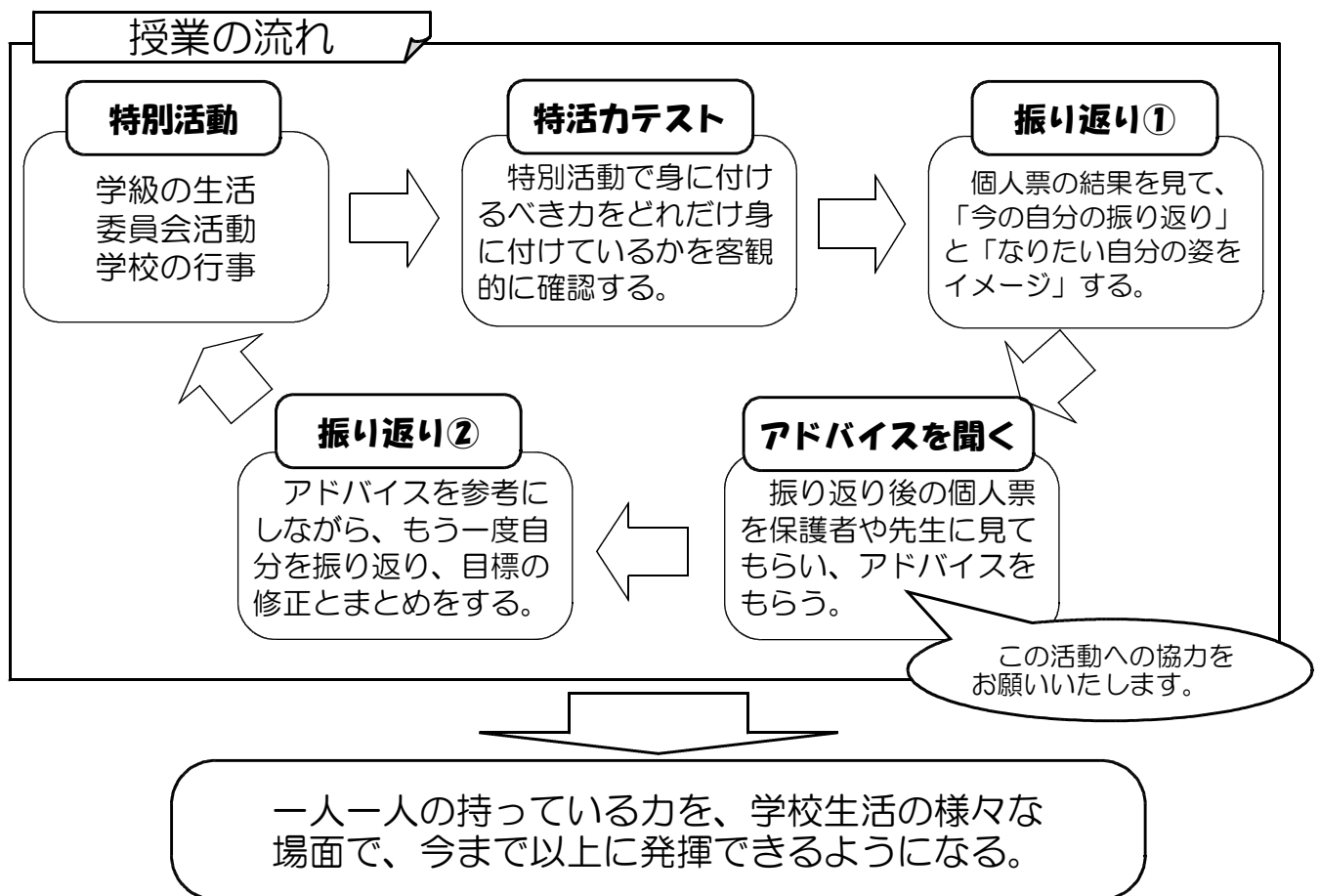
〇〇市立〇〇中学校
〇〇 〇〇

日頃より、〇〇市立〇〇中学校の教育活動にご理解とご協力いただき、ありがとうございます。

本校では、学校生活の様々な活動を通して、生徒に人間としての生き方や社会の中で自己を生かす能力を身に付けさせたいと考えています。そこで、中学校版「特活力テスト」を実施し、自分のよいところと変えたいところに気付き、自分を伸ばしていきたいという意欲と目標とする具体的な自分の姿イメージするための学習を行っています。

中学校版「特活力テスト」は、学校生活の様々な場面で「自分が現在どのように行動しているか。」「どのように行動できるようになるとよいのか。」を考えることで、生徒の判断力や価値観を養い、生き生きと学校生活を送れるようにすることを目的としています。

先日、各クラスで実施した「特活力テスト 個人票」を本日、お子さんに返却しましたので、『保護者から』欄に記入後、担任までご提出ください。



※ お子さんに「こんな大人になって欲しい。」「中学校生活でこんなことをがんばって欲しい。(身に付けて欲しい。)」 「こうするとよい。」など、普段の生活や特活力テストの結果から、アドバイスをしていただけましたら幸いです。

特活力テスト「個人票」の活用の仕方 No.1

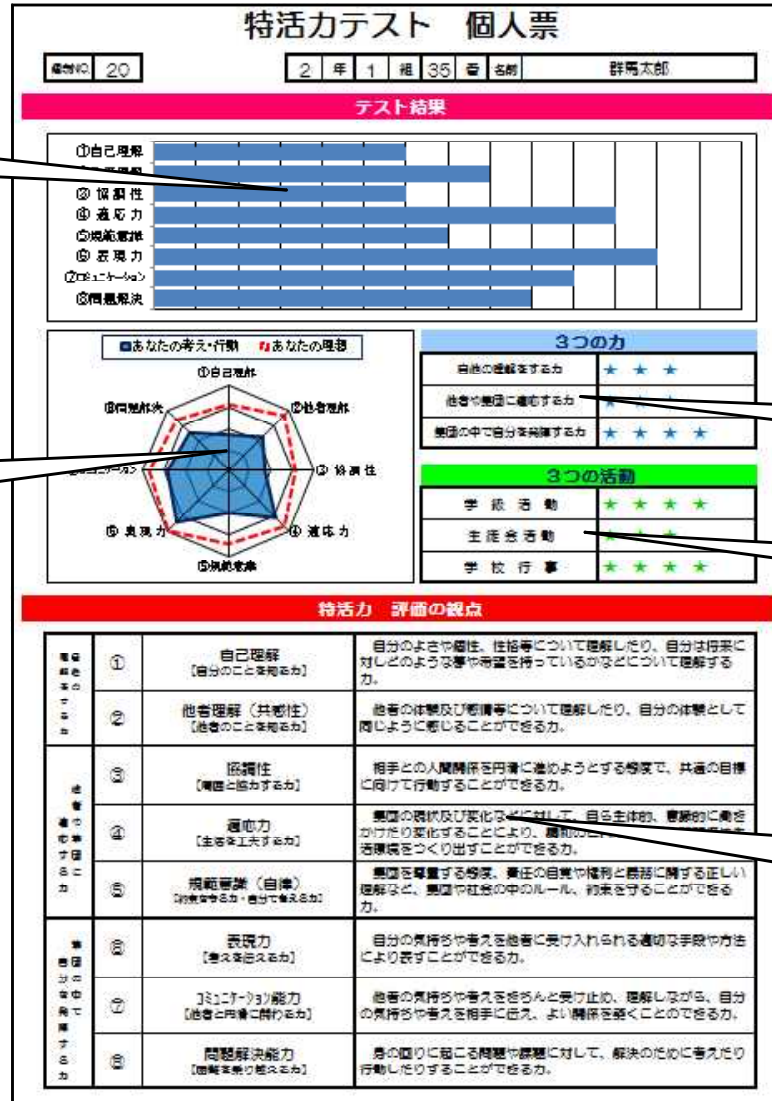
- ・「特活力 評価の観点」を参考にしながら、自分のよいところや苦手なところを振り返りましょう。
- ・問題文を見ながら、自分の答えを振り返りましょう。

「特活力 評価の観点」①～⑧の項目で、あなたの行動や考えを評価したものです。

- ・それぞれの項目の内容をよく読んで、あなたのよいところや苦手なところを見つけましょう。

色が塗られているところは、今のあなたの考えや行動。点線は、あなたが理想とする考えや行動です。

- ・あなたが理想とする考えや行動に、今のあなたがどれだけ近づけているのか、2つのグラフを比較してみましょう。また、どうしたら近づけるのか考えましょう。
- ・あなたが理想とする考えや行動の評価が低いときは、問題文を読み直して、それぞれの場面でどのように考えたり行動したらよいのか、もう一度考えてみましょう。



問題と評価の「特活力 観点」の関係

①自己理解	(5)1 (6)①②
②他者理解	(5)2 (6)③④
③協調性	(5)3 (6)⑤⑥
④適応力	(5)4 (6)⑦⑧
⑤規範意識	(5)5 (6)⑨⑩
⑥表現力	(5)6 (6)⑪⑫
⑦コミュニケーション	(5)7 (6)⑬⑭
⑧問題解決力	(5)8 (6)⑮⑯

「特活力 評価の観点」の3領域で、あなたの行動や考えを評価したものです。

クラス・委員会・行事の3つの場面でのあなたの行動や考えを評価したものです。

- ・★の数が多いほど高い評価となります。最高は★★★★★。
- ・それぞれの場面を想像しながら、自分を振り返りましょう。

学校生活で身に付けてほしい8つの力（3領域8項目）です。特活力テストは、この評価の観点をもとにつくられています。

特活力テスト「個人票」の活用の仕方 No.2

・「振り返り1」を記入後、先生と保護者にアドバイスをもらいます。このアドバイスを生活に生かせるように、「振り返り2」をまとめましょう。

特活力テストの結果を意識しながら、あなたの「よいところ」「変えたいところ」等を考えてみましょう。

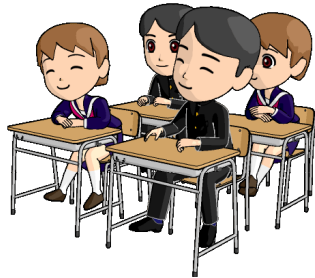
・「特活力 評価の観点」を参考に、考えましょう。

<書き方 例 「得意なこと」>

自分の気持ちや考えを相手に受け入れられるように話せる。

<書き方 例 「苦手なこと」>

自分の気持ちや考えを適切な手段で相手に伝えることが苦手だ。



先生や保護者からのアドバイスをしっかりと読んで、これからの生活に生かせるようにしましょう。

思ったことや特活力について考えたことをまとめましょう。

振り返り 1

特活力とは、あなたがこれから生きていく上でとても大切な力です。自分や周囲の人のことをよく知っていたり、約束が守れたり、仲間と協力したり…という8つの力を身に付けることで、より豊かな生活を送ることができます。特活力テストの結果や普段の自分を振り返り、なりたい自分の姿をイメージして、よりよい自分づくりをしていきましょう。

今の自分の姿

私のよいところ・得意なこと

私の変えたいところ・苦手なこと

↓

よりよく頑張りたい姿となりたい自分の姿

そのために取り組むこと

高橋先生から（テスト結果分析）

友達の間柄を理解したり、相手の気持ちを考えながら行動するなど、随分とよい関係を築くことが頑張っています。その反面、周りに気を遣うあまり、自分の考えとは違う行動をとってしまうこともあるようです。また、新しい環境や友達への動向が苦手な面もあるようです。自分の考えに自信を持って行動していきましょう。

保護者から

振り返り 2

「特活力 評価の観点」をもとに、なりたい自分の姿をイメージしましょう。「変えたいところ」だけでなく「よいところ」をさらに伸ばしていけるように考えましょう。

・特活力は①から⑧に向かって徐々に難しい力となっているので、「①の力を生かして、②の力を伸ばしていく。（②の力を付ける。」とすると、書きやすいです。

<書き方 例>

周囲と協力できるところが自分のよいところなので行事や委員会で協調性を生かしながら、自分の気持ちや考えを周りに伝えられるようになりたい。

「今の自分の姿」をどうやって「なりたい自分の姿」に変えていくのか、その方法を考えて、具体的に書きましょう。

<書き方 例>

〇〇（場面）では、□と△を意識して頑張っていく。

校内〇〇大会では、△ができるように計画的に練習する。

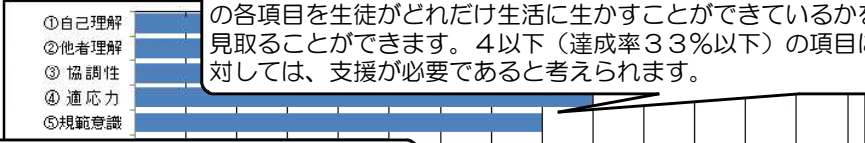
特活カテスト 個人票の活用の仕方（教師用）

図表NO. 11

2年3組10番 名前

振り返り 1

各観点のテスト結果を12点満点で表示しています。特活力の各項目を生徒がどれだけ生活に生かすことができているかを見取ることができます。4以下（達成率33%以下）の項目に対しては、支援が必要であると考えられます。



「今の自分の行動や考え」を青線、「理想とする行動や考え」を赤点線で達成率を表示しています。青線から、生徒の特活力の「思考・判断・実践」、赤点線から「知識・理解」を見取ることができます。生徒には、「今の自分」と「理想の自分」を比較させ、普段の行動を振り返らせます。

テスト結果「今の自分」を特活力の3領域で評価したものです。★が多いほどよい評価となります。

他者や集団に適応する力	★ ★
集団の中で自分を発揮する力	★ ★ ★

3つの活動	
学級活動	★ ★ ★
生徒会活動	★ ★
学校行事	★ ★ ★

生徒指導要録の特別活動評価項目で、「今の自分」を評価したものです。★が多いほどよい評価となります。

「特別活動で養われることが期待される4つの能力」（学習指導要領解説）・「キャリア教育で確実に育成しなければならない基礎的・汎用的能力」（キャリア教育の手引き）をもとに作成した特活力の評価の観点です。特活カテストは、この観点をもとに出題・採点を行います。

自己理解 【自分のことを知る力】	①	自己理解 【自分のことを知る力】	自分のよさや個性、性格等について理解したり、自分は将来に対してどのような夢や希望を持っているかなどについて理解する力。
	②	他者理解（共感性） 【他者のことを知る力】	他者の体験及び感情等について理解したり、自分の体験として同じように感じることができる力。
協調性 【周囲と協力する力】	③	協調性 【周囲と協力する力】	相手との人間関係を円滑に進めようとする態度で、共通の目標に向けて行動することができる力。
	④	適応力 【状況に応じて行動する力】	現状及び変化などに対して、自ら主体的、意識的に動きが変化するにより、調和のとれた良好な人間関係や生活環境を築くことができる力。
集団の中で自分を発揮する力	⑤	コミュニケーション能力 【他者と円滑に関わる力】	他者の気持ちや考えをきちんと受け止め、理解しながら、自分の気持ちや考えを相手に伝え、よい関係を築くことのできる力。
	⑥	問題解決能力 【困難を乗り越える力】	身の回りに起こる問題や課題に対して、解決のために考えたり行動したりすることができる力。
	⑦	コミュニケーション能力 【他者と円滑に関わる力】	他者の気持ちや考えをきちんと受け止め、理解しながら、自分の気持ちや考えを相手に伝え、よい関係を築くことのできる力。
	⑧	問題解決能力 【困難を乗り越える力】	身の回りに起こる問題や課題に対して、解決のために考えたり行動したりすることができる力。

特活力とは、あなたがこれから生きていく上でとても大切な力です。自分や周囲の人のことをよく知っていたり、約束が守れたり、仲間と協力したり...という8つの力を身に付けることで、より豊かな生活を送ることができます。特活カテストは、自分の強みや弱みを知り、より自分づくりをしていくためのツールです。

左ページのテスト結果をもとに、「よいところ」・「変えたいところ」を分析させます。「評価の観点」をよく読ませ、特活力に対する意識を高めてから書かせると、より具体的に振り返りができます。

今の自分の姿

私のよいところ

なりたい自分の姿

そのために取り組むこと

先生から

保護者から

振り返り 2

まとめ

再考・修正・追加

なりたい自分の姿を具体的にイメージさせます。「変えたいところ」だけでなく「よいところ」をさらに伸ばしていけるように考えさせましょう。

「今の自分」をどのようにして「なりたい自分」の変えていくのか、その具体的な方法を考えさせましょう。

テスト結果とは別に、教師から見た生徒の特活力について記入するとよいでしょう。生徒の実態に応じた、振り返り1の前または後に記入します。（保護者より先に記入）

保護者が特活力を理解していないと、効果的なアドバイスを記入することができません。三者面談で返却するなどしっかりと保護者に説明することが大切です。別紙の保護者通知を利用してよいです。

教師や保護者のアドバイスをもとに、特活カテストを振り返らせます。周囲の大人の思いを受け止めた上で、なりたい自分の姿を再考・修正・追加させましょう。

より、振り返り中に、個人面談や机間支援にアドバイスをしましょう。